

第 30 回首都圏政策研究会 要旨

日時：平成 26 年 7 月 23 日（15:00～15:40）

会場：参議院会館地下一階会議室

講師：平田 竹男氏（内閣官房 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室長）

テーマ：「2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて」

ご講演

1、はじめに

- ・皆さんこんにちは。今早稲田大学の先生をやっているのですが、参加者の皆様にあてて、講演をやらせていただきたい。
- ・大学では、桑田真澄や、水泳の平田コーチなどを教えている。ちょうど一昨年から、内閣官房の参与をやっている。
- ・本日一つだけ覚えて帰って頂きたいことは、五輪マークの横にナイキのようなマークが三つ並んでいるようになっているが、これはパラリンピックのマークである。五輪と略されるが、内閣官房では、「オリンピック・パラリンピック大会推進室」という形になっている。
- ・松沢事務所は日程について大変よく考えており、6 年後の明日が開会式である。大変暑い時期であるので、暑さ対策に関する課題もある。
- ・パラリンピックであるが、8 月 25 日のスタートである。こうなると、もう学校は始まっている時期である。学校で勉強するより、パラリンピックを観る方がよっぽど勉強になると考える。
- ・もう一つ覚えて頂きたいと考えているのが、地球上でパラリンピックを 2 回開くのは東京だけということである。

2、東京オリンピック、パラリンピックに向けての課題など

- ・佐藤真海さんは、何故日本ではパラリンピックが盛んにならないのかという問題意識を持って、大学院で研究を開始した。選手がそのような課題意識を持つほど、日本では盛んになっていない。
- ・会場は、環境面、コスト面も考えに含め、コンパクトになるように見直しを進めている。来年の 2 月に開催にあたっての基本計画を提出することになっており、年内が勝負である。
- ・昨年の 10 月 4 日に内閣オリパラ室が開かれた。オリンピック・パラリンピックというと、スポーツのイメージであるが、今の私の仕事の中でスポーツに関することは 1 割程度である。セキュリティ（テロ対策・サイバーセキュリティ）に関することであるとか、首都直下地震への対応、入管、検疫に関する課題がある。
- ・昨年、ビザ解禁などに伴い、外国人観光客が 1000 万人を超えたところである。観光客の

中には、若者のようにあまりお金を持っていない方々もおり、そうした方々への対応としてはコンビニや一流ではないホテルへの対応などもしなければならない。あるいは、交通インフラ、wi-fi 環境の整備、病院などの医療環境の整備などが必要となる。

- ・また、バリアフリーの側面では、ハード面での整備のみならず、自然に周りの方々が手を貸せるような環境も必要であり、心のバリアフリー化も重要である。

- ・ホストシティも重要である。2002年のW杯の際にも、中津江村で合宿をしたカメルーンチームがあったが、今回のブラジル大会でも、同村がカメルーンを応援している場面が有名となった。大会後にも、関係が続くということが重要である。

- ・また、アスリート自身にも大会後にすぐ日本を去るのではなく、観光や食事を大会後にも楽しんで頂くということが重要である。そうしたチャンスはオリンピックの前後、パラリンピックの前後という形で4回ある。こうしたことを含めて地方の起爆剤となって欲しい。

- ・文化も重要なものとなる。歌舞伎、能を見せるのみならず、初音ミクやガンダムを見ることが今後を見据えたブランディングとなっていく。

- ・東京大会をLIVEで見る方々は、2020年には、東南アジア、中国、インドなどの人口のボリュームゾーンが全て圏内に入り、非常に多くの人口となる。

- ・他にも、オリンピックに関連して記念コイン、宝くじ、受動喫煙防止などの要素がある。

- ・また、骨太の方針や成長戦略にもオリンピック、パラリンピックの内容が盛り込まれている。

- ・パラリンピックには、5分野あり、車椅子、切断・機能障害、視覚障害、脳性麻痺、知的障害があり、更に男女に分かれるため、メダル数が500を超え非常に多くなる。また、ソウル大会以降は、オリンピックと開催地が同じになり、メディア露出なども強くなった。

- ・ロンドン大会に関しては、大会前は開催に懐疑的な市民が多かったが、大会が始まってから市民がガラッと変わり、大変盛り上がった。

- ・1964年は新幹線を世界に見せたが、2020年は世界に何を見せるか。2020年は何をやるにしても、大きな節目の年となる。